

科目 No.67

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の概論																																						
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期																																				
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務																																						
<p>【科目のねらい】</p> <p>本科目は、成人期にある対象の特徴と基盤となる考え方・理論、援助方法論について学びます。成人期にある人は、人生の中でも最も長い期間、多くの役割を持ち、今を生きています。成人期にある対象の特徴や看護援助の基盤となる考え方・理論について理解し、様々な考え方や価値観を持つ大人の個別的な看護実践につなげていきましょう。</p>																																									
<p>【目的】成人期にある対象の特徴と、基盤となる考え方・理論、援助方法論について理解し、成人看護の基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の特徴を多角的な視点で説明することができる。</li> <li>2. わが国の社会状況を踏まえ成人期にある人の生活の特徴について説明することができる。</li> <li>3. 成人期にある人の健康課題と健康レベルに応じた看護について説明することができる。</li> <li>4. 成人看護に関連する概念・理論について説明することができる。</li> <li>5. 成人看護における質の高い看護実践と看護の役割について説明することができる。</li> </ol>																																									
<p>【DPとの関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>																																									
<p>【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>学習内容</th> <th>方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人と生活 1. 生涯発達の特徴：成人各期の発達段階・発達課題（ Erickson、Piaget、Vygotsky）</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 青年期、壮年期・中年期の身体的・心理的・社会的特徴</td> <td>演習 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>成人と生活 3. 成人と生活：家族形態と機能、社会状況の変化と成人の生活</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生活と健康 1. 生活状況の特徴 2. 健康の状況、成人の健康</td> <td>演習</td> <td>※終了後レポート課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生活と健康をまもりはぐくむシステム 1. 保健・医療・福祉システムの概要・連携</td> <td>講義 演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2. 退院支援のためのアセスメント</td> <td>演習 ポストテスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>成人への看護アプローチの基本① 1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助：大人の学習 アンドラゴジー 2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係</td> <td rowspan="3">講義 演習 ポストテスト</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>3. 集団における調和や変化を促す看護のアプローチ 4. チームアプローチ：関連職種との連携 5. 看護におけるマネジメント</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>成人への看護アプローチの基本③ 6. 倫理的判断：個人の尊厳、患者の権利 7. 意思決定支援：自己決定権と患者の意思 成人期における倫理的課題</td> </tr> </tbody> </table>						回	学習内容	方法	備考	1	成人と生活 1. 生涯発達の特徴：成人各期の発達段階・発達課題（ Erickson、Piaget、Vygotsky）	講義 演習		2	2. 青年期、壮年期・中年期の身体的・心理的・社会的特徴	演習 ポストテスト		3	成人と生活 3. 成人と生活：家族形態と機能、社会状況の変化と成人の生活	講義 演習		4	生活と健康 1. 生活状況の特徴 2. 健康の状況、成人の健康	演習	※終了後レポート課題	5	生活と健康をまもりはぐくむシステム 1. 保健・医療・福祉システムの概要・連携	講義 演習		6	2. 退院支援のためのアセスメント	演習 ポストテスト		7	成人への看護アプローチの基本① 1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助：大人の学習 アンドラゴジー 2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係	講義 演習 ポストテスト		8	3. 集団における調和や変化を促す看護のアプローチ 4. チームアプローチ：関連職種との連携 5. 看護におけるマネジメント	9	成人への看護アプローチの基本③ 6. 倫理的判断：個人の尊厳、患者の権利 7. 意思決定支援：自己決定権と患者の意思 成人期における倫理的課題
回	学習内容	方法	備考																																						
1	成人と生活 1. 生涯発達の特徴：成人各期の発達段階・発達課題（ Erickson、Piaget、Vygotsky）	講義 演習																																							
2	2. 青年期、壮年期・中年期の身体的・心理的・社会的特徴	演習 ポストテスト																																							
3	成人と生活 3. 成人と生活：家族形態と機能、社会状況の変化と成人の生活	講義 演習																																							
4	生活と健康 1. 生活状況の特徴 2. 健康の状況、成人の健康	演習	※終了後レポート課題																																						
5	生活と健康をまもりはぐくむシステム 1. 保健・医療・福祉システムの概要・連携	講義 演習																																							
6	2. 退院支援のためのアセスメント	演習 ポストテスト																																							
7	成人への看護アプローチの基本① 1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助：大人の学習 アンドラゴジー 2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係	講義 演習 ポストテスト																																							
8	3. 集団における調和や変化を促す看護のアプローチ 4. チームアプローチ：関連職種との連携 5. 看護におけるマネジメント																																								
9	成人への看護アプローチの基本③ 6. 倫理的判断：個人の尊厳、患者の権利 7. 意思決定支援：自己決定権と患者の意思 成人期における倫理的課題																																								

10	ヘルプ機能と看護 健康をおびやかす要因と看護 ストレスコーピング、生活習慣病の発生病因と予防	講義 演習	※終了後レポート課題
11	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 危機理論：フランク、アギユラとメズイック	講義 演習	
12	治療過程にある患者への看護技術 ボディイメージ	ポストテスト	
13	慢性病との共存を支える看護 エンパワメント、自己効力、病みの軌跡、 トランスセオレティカモデル（行動変容ステージモデル）	講義 演習	
14	障害がある人の生活とリハビリテーション 国際生活機能分類（ICF）の概念、価値転換理論	ポストテスト	
15	人生の最期のときを支える看護 死の受容過程、悲嘆	講義 演習	
	試験		
<p><b>【準備学習内容】</b>  テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。  重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。  ※課題は全てCラーニングの「レポート」へ提出です。各自で計画的に取り組みましょう。  4回目が終了したら「私のライフスタイル」についてレポートしましょう。  10回目が終了したら「私のライフスタイルから起こりうる生活習慣病とその予防」についてレポートにまとめましょう。</p>			
<p><b>【使用するテキスト】</b>  小松浩子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 2023</p>			
<p><b>【参考文献】</b>  安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2021-2022</p>			
<p><b>【評価方法】</b>  授業終了後のポストテスト（30点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（40点）、筆記試験（30点）  課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p><b>【受講上の注意】</b>  事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>			

科目 No.68

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の方法 I		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
<p>【科目のねらい】</p> <p>本科目では、成人期に多い健康障害として代表的な急性疾患・慢性疾患にある対象の事例を通して、疾患による機能障害や主要症状における対象とその家族の看護について学びます。役割の多い成人期の対象にとって、疾病を患い、治療や療養を維持・継続することは、生活スタイルや役割に大きく影響を及ぼすことから、対象と家族に対する個別的な身体的・心理的・社会的支援が必要です。事例を通して対象理解を深める視点を養うとともに、活用できる理論を用いて 3 側面における個別的な看護の方法について学んでいきましょう。</p>					
<p>【目的】成人期にある対象と家族を理解する視点を踏まえ、疾患による機能障害や主要症状に対する看護の方法について理解し、成人看護の基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患による機能障害や症状に対する看護のポイントについて述べるができる。</li> <li>2. 疾患による機能障害が患者の生活に及ぼす影響について述べるができる。</li> <li>3. 成人期にある対象とその家族の心理・社会的な特徴を理解し、看護の役割について説明することができる。</li> <li>4. 対象に出現している症状の状態やその場の状況を判断し、適切な看護を提供することができる。</li> </ol>					
<p>【DP との関連】</p> <p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容	方法	備考		
1	急性・慢性疾患を持つ成人・家族の特徴、対象への看護 成人期の発達段階、活用できる代表的な理論 ・危機理論 ・ストレスコーピング理論 ・アンドラゴジー ・自己効力理論 ・病みの軌跡 ・トランスセオレティカモデル（行動変容ステージモデル） ・障害受容過程 ・悲嘆、予期悲嘆 ・ボディイメージ	講義 演習			
2	事例患者①（壮年期の急性心筋梗塞） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（フインクの危機理論 ストレスコーピング理論）	演習 ポストテスト			
3	グループで考えた事例患者①の看護	演習			
4	事例患者②（壮年期の糖尿病） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（自己効力理論 行動変容ステージモデル アンドラゴジー）	演習 ポストテスト			
5	グループで考えた事例患者②の看護	演習			
6	事例患者③（中年期の COPD） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（病みの軌跡）	演習 ポストテスト			

7	グループで考えた事例患者③の看護	演習	
8	事例患者④（壮年期の乳がん） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（ボディイメージ 予期悲嘆、悲嘆 障害受容過程）	演習 ポストテスト	
9	グループで考えた事例患者④の看護	演習	
10	事例患者⑤（中年期の直腸がん） 身体的・心理的・社会的側面に対する看護 活用する理論（ボディイメージ 予期悲嘆、悲嘆 障害受容過程）	演習 ポストテスト	
11	グループで考えた事例患者⑤の看護	演習	
12	事例患者の主要症状への対応（臨床判断）	演習	
13	悪心・嘔吐、胸痛 シミュレーション		
14	事例患者の主要症状への対応（臨床判断）		
15	疼痛、呼吸困難 シミュレーション		
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。 重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。 ※授業では授業前までに学習した知識を活用してグループワークと発表を行います。各自で計画的に取り組みましょう。</p> <p>2 回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な循環機能や急性心筋梗塞の病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。 4 回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な糖代謝機能や糖尿病の病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。 6 回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な呼吸機能や COPD の病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。 8 回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な乳房の構造・機能や乳がんの病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。 10 回目までに解剖生理学や疾病と治療で学んだ正常な消化・吸収機能や直腸がんの病態・主要症状・治療を復習しプレテストを解いておきましょう。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>小松浩子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院 2023 飯野京子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院 2023 香原知永他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 2023 吉岡成人他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 2023 南川雅子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 2023 川村雅文他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 2023 末岡浩他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70 点） 課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>グループワーク、技術演習には予習を行ってから臨み、主体的・積極的に参加すること。 事前学習や復習などで自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p>			

科目 No.69

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の方法Ⅱ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1単位 30時間（15回）	配当時期	2年後期
講師名	須藤麻友美	所属および実務経験	九州中央病院 看護師長／看護師		
	加藤妙子		九州中央病院 副看護師長／看護師		
	太田優紀		済生会福岡総合病院／看護師		
	原妙子		訪問看護ステーション One Heart／看護師		
	クレスポ亜沙美		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】 本科目では、成人期に多い健康障害として代表的な急性疾患・慢性疾患にある対象事例を通して、治療・特殊療法とそれに伴う看護について学びます。また、役割の多い成人期の対象が、治療や療養を継続していくためには、病気と家庭・社会と折り合いをつけながらセルフマネジメントできるように支援することが重要です。基礎看護技術で学んだ技術を活用しながら、事例を通して様々な場面での対処方法やセルフマネジメント推進への支援について学んでいきましょう。					
【目的】成人期にある対象が安全・安楽に治療や療養を継続するために必要な看護の方法について理解し、成人看護の基礎的能力を養う。 【到達目標】 1. セルフマネジメントを必要とする対象の身体的・心理・社会的特徴を踏まえ、その人らしく生きるとはどのようなことであるか述べることができる。 2. 代表的な疾病に対する治療・特殊療法とそれに伴う看護のポイントについて説明することができる。 3. 事例をもとに対象のアセスメントから援助計画を立案し実施・評価することができる。 4. 看護師とはどのような役割をもち、多職種と連携して活躍できるのか表現することができる。					
【DPとの関連】 DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。 DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。 DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。 DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。 DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容	方法	備考		
1	循環機能障害のある患者の看護 心臓カテーテル検査、心電図検査、運動負荷試験 経皮的冠状動脈インターベンション（PCI）、ステントグラフト内挿術	講義 ポストテスト	須藤麻友美		
2	事例患者（壮年期の急性心筋梗塞） ・点滴、ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 （リスクマネジメント：KYTの視点を活用する）	演習			
3		演習			
4	ME 機器と看護： ・心電図モニター、パルスオキシメータ、人工呼吸器、除細動器使用時の留意点 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの使用方法和留意点	講義 ポストテスト 演習	加藤妙子		
5	急変時の応援要請：一次救命処置	演習			
6	消化・吸収機能障害のある患者の看護 ・上部消化管内視鏡検査 ・大腸内視鏡検査 ・上部・下部消化管造影	講義 ポストテスト			
7	事例患者（中年期の直腸がん） ・ストーマケア、装具交換 （スタンダードプリコーションを用いる）	演習	加藤妙子		
8		演習			
9	栄養代謝機能障害のある患者の看護	講義	太田優紀		

	・肝生検・食道静脈瘤硬化療法・肝動脈塞栓術	ポストテスト	
10	ドレーン管理	講義 演習	太田優紀
11	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護 ※テキストに準じて代謝を追加 ・ホルモン負荷試験・ホルモン血中・尿中濃度測定検査 ・血糖測定（デモンストレーション）	講義 ポストテスト	原妙子
12	事例患者（壮年期の糖尿病）	演習	
13	・食事指導 （学習支援を用いる）	演習	
14	専門職連携協働（IPW） 理学療法士養成と看護師養成の学生間協同学習	講義 演習 ポストテスト	グレスポ亜沙美
15	「成人期にある対象とその家族への支援」 協同学習を終えての学び・まとめ		
	試験		
<p>【準備学習内容】</p> <p>テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。</p> <p>重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。</p> <p>技術演習の前日までにはテキストや参考書にて手順や留意点について確認しておきましょう。</p> <p>4 回目は、臨床看護総論のテキストの付章を使用します。</p> <p>5 回目は、基礎看護技術Ⅱのテキストを使用します。</p> <p>※予習課題は全て授業前までに提出です。授業では予習課題を活用してグループワークと発表を行います。各自で計画的に取り組みましょう。</p> <p>14 回目までに「脊髄損傷を受けた患者の看護」について調べ学習を行い事前にレポートにまとめておきましょう。</p> <p>15 回目までに 14 回目の「協同学習を終えての学び」をレポートに記載しておきましょう。</p> <p>動画視聴：「診療に関わる技術：検査時の看護Ⅰ・Ⅱ」「ME 機器の知識と技術」「目で見る臨床検査 No.4 代謝内分泌検査」 「クリティカルケア看護 vol.2」「看護のためのアセスメント事例集 vol.3,4」このシリーズの動画は授業前後の自己学習に活用してください。</p>			
<p>【使用するテキスト】</p> <p>飯野京子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院 2023  吉岡成人他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 2023  南川雅子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 2023  井手隆文他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院 2023  茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2023  任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2023  武田宣子他著 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 2023</p>			
<p>【参考文献】</p> <p>藤本真紀子他監 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 2022  近藤一郎他監 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 2022</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>授業終了後のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（70 点）</p> <p>課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。</p> <p>チェックリストや技術の動画は、指定された日時までに提出してください。</p> <p>到達レベル 演習Ⅰ：点滴・ドレーンを留置している患者の寝衣交換、一時救命処置、緊急時の応援要請</p> <p>到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。</p> <p>演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出、自己練習後の動画提出、対面による技術試験など</p>			
<p>【受講上の注意】</p> <p>グループワーク、技術演習には予習を行ってから臨み、主体的・積極的に参加すること。</p> <p>事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。</p> <p>チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。</p>			

科目 No.70

分野	専門分野	科目	成人看護学：成人看護の方法Ⅲ		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時 期	2 年後期
講師名	クレスポ亜沙美	所属および実務経験	専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
	木下由理子		専任教員 / 医療機関において看護師として勤務		
【科目のねらい】					
<p>本科目では、成人期に多い健康障害として代表的な疾患にある対象の事例で看護過程を展開し、対象とその家族に対する個別的な支援について学びます。役割の多い成人期の対象にとって、病状や治療・療養方法を維持・継続していくことは、生活スタイルに大きく影響を及ぼすことから、対象の個別的な問題点の抽出と、具体的な支援が必要です。成人看護の概論、成人看護の方法Ⅰと方法Ⅱで学んだ知識を統合して看護過程を展開し、対象の個性性を踏まえた看護の実践力を高めていきましょう。</p>					
【目的】成人期にある対象を全人的にとらえ、個性のある看護を実践するために看護過程を展開できる基礎的能力を養う。					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゴードンの機能的健康パターンに基づく枠組みを利用してアセスメントし問題点を導き出す事ができる。</li> <li>2. 関連図を作成し、対象の全体像を把握することができる。</li> <li>3. 対象の看護問題・共同問題の優先順位を決定することができる。</li> <li>4. 看護問題に対して、目標設定し、対象の情報を活かした個別的な計画（安全・安楽性も踏まえる）を立案することができる。</li> <li>5. 初期計画の一部を実施し、評価・考察からより個別的な計画へ修正することができる。</li> <li>6. グループワークを通して主体的に学習する姿勢を身につけ、看護を考える楽しさを分かち合うことができる。</li> </ol>					
【DPとの関連】					
<p>DP1 人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。</p> <p>DP2 看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく、看護実践やリーダーシップを示すことができる。</p> <p>DP3 対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。</p> <p>DP4 対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。</p> <p>DP5 多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。</p>					
【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）					
回	学習内容	方法	備考		
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期・回復期の看護過程オリエンテーション</li> <li>2. アセスメントの視点</li> <li>3. 事例紹介「直腸がん・直腸切断術を受ける向老期の対象」</li> <li>4. 患者の病態・麻酔・術式・再建方法・看護の理解</li> </ol>	講義 演習	クレスポ 亜沙美	事前学習：事例患者の病態・麻酔・術式・再建方法の学習 事後学習：上記復習	
2	グループにて関連図の検討 問題の抽出（看護診断・共同問題）	演習		事前学習：個人にて関連図作成 事後学習：個人にて関連図の修正	
3	術前・術中・術後の問題点の明確化	演習		事前学習：発表準備 事後学習：個人にて関連図の修正	
4	術後の観察とアセスメント（臨床判断）	演習		事前学習：標準看護計画を参考に して術後の観察の計画立案 事後学習：SOAP 記載	
5	グループでの術後の観察とアセスメント	演習		事前学習：発表準備 事後学習：SOAP 修正	
6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期の看護過程オリエンテーション</li> <li>2. アセスメントの視点</li> <li>3. 事例紹介 「直腸がん術後で退院に向けた支援を受けている向老期の対象」</li> </ol>	講義 演習	木下 由理子	事前学習：ゴードンの機能的健康パターン、 アセスメントの視点（各パターン）について	

				事後学習：個人で病態・検査・治療について復習	
7	模擬患者へのインタビュー グループにてアセスメント 仮診断の抽出	演習	木下 由理子	事前学習：個人で各パターンのアセスメント、不足情報の整理 事後学習：個人でアセスメントの修正・追加	
8	グループでアセスメントしたうえで抽出した仮診断	演習		事前学習：発表準備 事後学習：個人でアセスメントの追加・修正	
9	グループでの関連図作成、統合、 問題の明確化、優先順位の検討	演習		事前学習：個人で関連図作成 事後学習：個人の関連図の追加・修正	
10	優先度の高い問題点とその根拠 (関連図を用いてプレゼンテーション)	演習		事前学習：発表準備 事後学習：個人で関連図の追加・修正	
11	目標設定、初期計画立案	演習		事前学習：個人で目標設定、計画立案 事後学習：目標・計画の追加・修正	
12	グループでの目標、初期計画	演習		事前学習：発表準備 事後学習：計画の追加修正	
13	各グループで計画の実践 (ロールプレイ：グループで役割を決めて実践する) 例) ・ボディイメージの変容に対する支援 ・ストーマ管理の指導 ・日常生活（食事、衣類、運動、旅行・外出、仕事、 セクシュアリティ、災害時の備え等）についての指導 ・内服薬管理の指導 ・社会保障制度についての指導 ・患者会、ストーマ外来でのフォローについての情報提供 ・排便方法（洗腸法）の指導 ※指導技術の場合は要学習支援計画書（グループで作成）	演習		事前学習：実践の練習・実施・発表準備 ※実践の様子を各グループ iPad で録画したものをを用いて発表する。 事後学習：個人で SOAP 記載	
14	グループにて SOAP 共有 計画の追加・修正	演習		事前学習：個人で計画の追加・修正 事後学習：個人で計画の追加修正	
15	SOAP、計画の追加・修正について	演習		事前学習：発表準備 事後学習：個人での提出物の整理・自己評価	
	終了試験				

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかりと行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

※予習課題は全て授業前までに提出です。授業では予習課題を活用してグループワークと発表を行います。各自で計画的に取り組まましょう。

記録用紙は実習と同様のものを使用します。教員の許可なくコピーはしないようにしましょう。

1 回目までに「事例患者の病態・麻酔・術式・再建方法」について調べ学習を行いレポートにまとめましょう。

2 回目までに「事例患者の関連図」を作成し、問題点（看護問題・共同問題）を抽出しておきましょう。

3 回目までに標準看護計画を参考にして「術直後の看護計画」を立案しておきましょう。臨床判断のシミュレーションが終わったら、その場面についての「経過記録（SOAP）」を記載しましょう。

7 回目までに個人でゴードンの機能的健康パターンを利用してアセスメントし、不足情報を明らかにしておき模擬患者へのインタビューに備えましょう。

9 回目までに個人で「事例患者の関連図」を記載し、問題点（看護問題・共同問題）を抽出しておきましょう。

11 回目までに優先度 1 位の問題点について個人で「目標設定、計画立案」しておきましょう。

13 回目までにグループメンバーで役割を決めて計画を一部実践し、その様子を iPad で録画した動画を準備しておきましょう。

その動画を使用して各グループ発表を行います。

14 回目までにグループで実施した内容の場面の「経過記録（SOAP）」を個人で記載しておきましょう。

15 回目までに個人で「看護計画を追加・修正」しておきましょう。

【使用するテキスト】

南川雅子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 2023

茂野香おる他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2023

任和子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2023

矢永勝彦他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2023

北島政樹他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 2023

リンダ J. カルペニート著 黒江ゆり子監 看護診断ハンドブック 第 11 版 医学書院 2020

【参考文献】

渡邊トシ子編 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント ヌーベルヒロカワ 2015

中島恵美子他編 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 2022

川島みどり他監 臨床看護学 2 経過別看護 第 2 版 メヂカルフレンド社 2011

【評価方法】

事例を用いた看護過程の展開におけるレポート課題及びグループワーク・演習参加態度（100 点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

グループワーク、技術演習には予習を行ってから臨み、主体的・積極的に参加すること。

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。